

追 悼

石田 暉先生を悼む

慶應義塾大学月が瀬リハビリテーションセンター 木村 彰 男

東海大学リハビリテーション科学教室石田暉教授が2007年1月5日に逝去されました。先生のご冥福をお祈りし、謹んで哀悼の意を表したいと存じます。

石田先生は慶應義塾大学医学部を1973年に卒業され、当初は整形外科学教室に入局されています。ちょうど、千野直一先生が米国から帰国され、母校のリハビリテーション科を新たに立ち上げる時期に当たり、千野門下の最初の弟子として1974年4月にリハビリテーション科に転科されました。私は石田先生の1年後輩にあたり、直接リハビリテーション科に入りましたので、まさに同時に入局したわけです。まだバラックのような建物でリハビリテーションを行っていた時代で、千野先生の指導のもと、石田先生と勉強会、抄読会などを行い、リハビリテーションの臨床や筋電図検査に取り組んでいたことが懐かしく思い出されます。石田先生はその後、恩師の千野先生が長年リハビリテーション医学の研鑽を積まれた、米国ミネソタ大学の大学院に留学され、帰国後、慶應義塾大学月が瀬リハビリテーションセンターなどに勤務された後、1983年から東海大学リハビリテーション科に移られています。村上恵一教授を支えて同教室の礎を作られた後、1997年に村上教授のあとを継いで教授に就任されています。

先生のご活躍は皆様ご承知のことと思いますが、骨髄移植のリハビリテーションを体系化させるなどの臨床、研究はもとより、後輩の育成にも力を入れ、多くのリハビリテーション科専門医を輩出しておられます。また日本リハビリテーション医学会の理事として、とくに社会保険関連を担当され、内保連でも副代表、リハビリテーション関連委員会の委員長などの要職を務められました。

石田先生は温厚でだれからも好かれるお人柄で、趣味も多彩、学生時代にはテニスの名プレーヤーとして活躍されたり、麻雀も大好きで一緒に病院に勤務した頃は、しばしば共に卓を囲んだものでした。麻雀をされない千野先生からは二人ともひんしゅくを買いましたが、よく遊び、よく学んだ時代で、その後のリハビリテーション医学の世界で生きていく基礎を築く大切な時期をともに過ごすことができたことを感謝しております。

石田先生は、2008年開催の第45回日本リハビリテーション医学会の会長に決まっていたが、病気と闘いながらこのことを一番気にかけておられ、準備されていたようです。同学会は先生のご遺志に報いる形で、東海大学リハビリテーション科学教室が実質的な運営にあたることが過日決まりましたが、誰よりも先生がこのことを喜んでおられることと思います。合掌。